



ハテマロ会 ネパール大震災支援活動

ハテマロ会

हातेमालो समाज



HATEMALO SOCIETY

第1回「ネパール大震災 被害状況視察&復興支援」 報告書

日 時：2015年9月9日（水）～2015年9月20日（日）

活動報告：小島佳子 / ラジブ・シュレスタ

この度、ネパールで発生した大地震による壊滅的な被害状況を確認するため、ハテマロ会のラジブ・小島の2名が、2015年9月9日（水）～9月20日（日）（11泊12日）にネパール現地を訪問し、ハテマロ会の活動の一環として震災状況の視察及び支援実施をして参りましたので、ここにご報告いたします。

現地訪問者：小島佳子 2015年9月9日～2015年9月20日（11泊12日）

ラジブ・シュレスタ 2015年9月11日～9月20日（9泊10日）家族同伴

訪問地域：小島⇒ドリマラ村（East Palpa）、Gerku村（Nuwakot）

ラジブ⇒シタパイラ、カトマンズ旧王宮、パタン旧王宮、バクタプール旧王宮

小島・ラジブ⇒ラリトプール市の村々（Godamchaur、Badegaun、Godavari、Thaiba、
Harisiddhi、Ghusel、Bungamati）

宿泊先：小島⇒パタン：Newa Chen：Kwalakhu Rd, Patan 44600 Nepal（+977-1-5533532）

タンセン：Hotel Crown（+75-522503）／ドリマラ村：民泊

ラジブ⇒自宅、親戚の家

現地訪問者連絡先：小島佳子：kkeiko69@gmail.com

ラジブ：rajeeshrestha@gmail.com（TEL：090-6302-9151）



今回印刷してもらったノート：1,200冊

活動内容

1. 東パルパ地方ドリマラ村周辺：小島単独 9/10（木）-9/14（月）

行動範囲：東パルパ郡タンセン町→ドリマラ村→サチコール村→マイダン村

（1）タンセン町視察（OKバジ垣見氏の活動に同行）

①ブッシュルダラ・セカンドリースクール（復活したボーディングスクール）

* 垣見氏支援者よりの文具支援を見学

②マヘンドラ・ボーディングスクール（貧しい家庭の子どもが多い）

* 垣見氏支援団体からの奨学金支援を見学

③デウラリ・ウィークリー（タウンニュース社）のインタビュー（30分）

* 垣見氏友人として、タンセンの感想や、来日目的など話す。後日、記事として掲載予定。



（2）ドリマラ村視察

①村のユースクラブ（村の社会奉仕グループ）との懇話会（2時間、ビデオ撮影記録あり）

概要：学校教育について、村に支援が入る前後の変化、それらをどう感じているかなど

②水道設備（日本人より支援）視察

近くの川からホースを引いてきて、水タンクに貯めている。管理不足で水が溜まっていないこともあり、垣見氏がメンテナンスをしっかりとるよう、常に注意している。井戸掘削について聞いたが、山は岩盤が固く、難しい模様。又、カトマンズ近郊は、現在掘削しすぎて水位が下がっている。

③古着支援（6着）

人数分ないため、配布が難しい。お世話になった民家へ、お礼として置いてくる。

（3）サチコール村視察

①小学校の生徒へ文具支援（150人分：ハテマロノート、鉛筆、消しゴム、鉛筆削り）

②音楽堂、ヘルスポスト、水道設備（日本人より支援）視察



（4）マイダン村視察

①小学校の生徒へ文具支援（ノート、鉛筆、消しゴム、鉛筆削り他）

（5）アマサムア（婦人会）マイクロクレジット支援

* Bhagmaler 村アマサムア（婦人会）を予定

2. Kobahal Tole 被災者懇談会：ラジブ単独 9/12（土）

ラジブ自宅に周辺の被災者を招集。被災状況について話し合い。Kobahal Tole では全壊した建物は少ない。ただし、地震の影響でひび割れしてしまった家々が多い。多くの住民はKobahal Tole や周辺の

地域から離れたところに別に鉄筋コンクリートの建物を所有しており、20世帯以上が古家を諦めて移住してしまった。人が住まないとひび割れの土の家はネズミの巣となり崩れ落ちる可能性が高くなるとか。ひび割れ程度の家々には政府からの補助金がおらず、その修復はみんなの悩みどころ。建築材が高止まり、人材不足による建築人員の日給も高騰している状況。被害を受けた住宅を解体するだけでも一軒家を別途建てられるくらいの費用がかかるため、その費用を用意できず、放置している状況。そもそもお金がなく古家しか持たない人々は危険を承知の上で否応なく古家に住み続けている。最近では恐怖感が少し和らぎ1階だけに生活するようになり、今月初め頃からは家の上層部にも上がる勇気がでてきて、家の上層部も生活空間として使用し始めている。政府が新たな家の建築基準を決めたことにより、耐震構造の家を建てなければならなくなったので普通の倍くらい費用がかかってしまうので放っておく人が多い。自分たちが生活しなくなったのでテコ入れをして、そのまま放置しているところが多い。



3. 父の日儀式：ラジブ単独 9/13（日）

この日はネパールの旧暦による父の日。父が亡くしてしまった子世代（息子、娘）は朝早くからシャワーを浴びて身を清め、祖先への清めたおいしい食料を用意して、僧侶さんのところに行き、祖先に食事を備える儀式をしてもらう。ラジブも父を亡くしているのものでその儀式をもらう。これは日本のお墓参りに似ている風習である。



一方、子供たちからは近代的にケーキで父の日のお祝いをしてもらった。

4. SHREE SITAPAILA HIGHER SECONDARY SCHOOL 訪問：ラジブ単独 9/13（日）

場所：SITAPAILA, カトマンズ ※しばらくお茶会をしながら打合せ



●被害状況：

事務室は政府の赤ラベル（危険）が貼られている。



この事務所の後ろにつないでいる2階建て8室のビルは使えない状態。要再建とのこと



事務室の前のスペースで仮設教室建設中



●その他

- トイレもひび割れてしまって不便になっている。
- 10+2も導入されているから教室は極端に不足しており、1日2交代で授業運営している。
- 8室の建物の修復はできないため建て直す必要があるとのこと。
- 雨天時など、子供たちの身を守るスペースがないのが心苦しい。（校長先生）
- 8室の2階建てを建て直すのに、解体費用150万ルピーから200万ルピー、再建費用600万から700万ルピーが必要だと推測されている。
- この学校に通う生徒たちの中、75%以上が労働者層の子ども。日常生活、学業に必要なものなら何でももらえるとありがたいとのこと。もちろん靴でもいいが、この度学校委員会で全生徒にTrack Suit（運動着）を導入することが決まったので、それを支援していただけると親として嬉しい。おおよそ500人の生徒がいるので与えるときは全員に与えてくれると差別感がなくなるのでは。。

5. NAMUNA MACHHINDRA MADHYAMIK VIDYALAYA 訪問：ラジブ単独 9/13（日）

ラジブの母校。大きな学校ではあるが、ほとんどひび割れていて使用禁止になっていた。学校の授業は仮設教室、または、何とか使える部屋で危ない状況のまま行われている。



※生徒たち 100 人に文房具セットを配る。



※学校の先生たちと食事懇談会：先生方全員、それぞれの家屋が地震の影響で被害を受けており、心が折れてしまっていた。さらに学校もほとんど壊れてしまって、絶望的だった。ただし、一人のOB（ラジブ）が学校を訪ねてきたことを大変喜んでくれて、大歓迎を受けた。学校建設の支援をしなければならぬ雰囲気になったが、手が届かないだけに学校建設支援の約束はできなかった。ただし、何らかの形で復旧、復興をお手伝いさせていただくことを約束してきた。



また、この学校には目の不自由な生徒たちも勉強しているが、視覚障害者に特化した授業が出来なくて大変困っていると訴えられる。震災後は他から生徒が編入してきて増えているという。

6. CHAPAT TOLE 識字学級生徒たちと食事懇談会：ラジブ単独 9/13（日）

CHAPAT TOLE にて以前実施した識字学級の受講生たちの現状を把握するとともに大震災からの恐怖や精神的な苦痛を社会集団に復帰することによって少しでも和らげることにはできるという信念のもとに夕食会を実施してもらった。受講生たちは自身の所属するコミュニティのチャパ（共同で活動する場所）を使用して朝早く、買い物から食事の支度まで一生懸命に頑張ってくれた。



アンケートを書いてもらったのだが、多くの NGO と仕事をしたことがあると誇示する人物が現れ大事になった。アンケートに「うちの団体に何を期待していますか」という項目があったため、支援を求める人に支援してくれるのかと詰問された。また、このアンケートの結果や食事会の様子を日本で見せて、お金を集めるための手段として利用するのではないかと疑われた。長時間説明しても納得せず、その人はそのまま去っていった。

現在、ネパールは NGO ブームで、大型 NGO によって大金が流れており、その多くは役員の手に入るといのが悪名高い事実である。また、我々のような草の根団体にも大規模 NGO と同等の支援を求めることが住民の習性になっている。小規模の NGO にとってはこの辺は要注意であり、継続する上での大きな課題である。今後もこのような問題が起こりうるが、活動を継続する上では上記のような方々もおられることをしっかり念頭におき、団体にある資源を直接被災者の手元に届けるように努力する必要がある。その辺はしっかりと活動し続けるつもりである。

7. ラリトプール市周辺 1：小島+ラジブ 9/15（火）

(1) Godamchaur

過去の識字学級受講生、現在の識字学級受講生達にお菓子セットを配り、懇親会を行った。

①ラジブの識字教育支援を受けた方々との顔合わせ会：グループ A





②ラジブの識字教育支援を受けた方々との顔合わせ会：グループB



この辺も大震災によって家を失くした方々が多く、心に大きな傷を抱えている。

(2) Godamchaur School : 文具支援 (ノート、鉛筆、消しゴム、鉛筆削り)



ほぼ全員から仮設住宅への支援や自宅再建の支援の依頼があった。事実上無理なことだが、少しでも地震による精神的な苦痛が緩和すればよいと思い、食事懇談会を実施した。お菓子セットをもらい非常にありがたく思ってくれた。それに加えて是非とも資金援助をしてほしいということ全員一丸となって主張していた。

* 血液ガンの子どもへの支援の要望あり

この子は血液癌にかかっており、定期的に血液を交換しなければならない状況である。親の収入は月間1万ルピー程度(約11000円)だが、一回血液交換するだけで3,4万ルピーがかかる。途中で病気になるとさらに治療費が必要になるため、いつも予断を許さない状況だそうだ。専門医からは、癌なのでなんとも言えないが、子どもなので奇跡的な免疫力で回復する可能性もあるとあって希望を与えられているそうだ。この子の治療費を支援してほしいと母親から涙ながらにお願いされた。ハテマロ会もお金がないので現状では余力がないが、人道的にもFACEBOOKなどに情報を公開して支援者を募るなどしてできる限りの支援方法を探りたい。



Pratik Bhandari 君 (5才)

* 保健室の薬、トイレ・水道設備支援の要望あり



Godamchaur School では専用の医療設備があり、月に2回（第2日曜と第4日曜）政府から3人の医者が派遣され無料検診をしてくれるとのこと。医者への派遣料（注：実費だと非常に高い）が不要となるので薬代だけ支援してくれれば、ハテマロ会の主催で無料ヘルスキャンプを実施することができると思われる。試験的に10月4日に一度実施してもらおうように頼む。予算が合えば継続的に実施していきたい。

(3) Godavari

①お寺視察

現在12年に一度行われるお祭りが実施しており、大混雑。お寺の上部が崩れ落ちなくなっていた。



(4) Badegaun

①町視察、SHREE BUDDHA HIGHER SECONDARY SCHOOL 視察

家々がかなり崩れている地域あり。学校に関しては、一部使用禁止（赤ラベル）の建物もあった。東山ユネスコ協会の支援で建てられた2階建てのビルがあり、それは健在と賞賛していた。



(5) Thaiba 村：お財布プロジェクトのおばあさんへのインタビュー（ウツタム氏同行、動画あり）

自宅は住めないため、他に仮住まい。手作り財布を3ついただくが、他のものよりも作りがかなり高品質。一生懸命、お茶やビスケットを勧めてくれる。

おばあさんの写真入りのハテマロFBなどを見せればよかったと後悔。



(6) Harisiddhi 町視察

全壊の建物が多く、街全体がかなりひどい状態。





写真一番右の背姿の方は、崩れ落ちた家の中で自分がいた部屋だけが奇跡的に残り、埃で埋まった状態から救出されたとか。村を案内してもらった。



(7) Guitol 夕食

GUITOL TOLE でも、以前実施した識字学級受講生たちの現状を把握するとともに、大震災からの恐怖や精神的な苦痛を、社会集団に復帰することによって少しでも和らげることができるという信念のもとに夕食会を実施してもらった。こちらの受講生たちは自身の所属するコミュニティのチャパ（共同で活動する場所）を使用して朝早く、買い物から食事の支度まで一生懸命に頑張ってくれた。



8. ラリトプール市周辺2：小島+ラジブ 9/16（水）

（1）Ghusel 村

ハテマロ会の元会長の出身地。カトマンズからわずか 23 キロ離れた村落ではあるが、震源地のごとく 95%の家屋が崩壊したようだ。

① 小学校視察

ハテマロ会の元会長の母校。日本人が作ってくれた鉄筋コンクリート造りの建物は健在。その他の土と煉瓦の建物は使用できなくなっていた。ユニセフなどが入り、よりいい仮設教室などを作ってくれたそうだが、仮設教室は長くて 2 年しか使えず、その後の学校運営が心配されている。確かにひどい状況だった。



② 村民との懇話会

村民や学校運営委員会委員と懇話会。地震当時のこと、被害の状況、学校の状況について話を聞かせていただいた。この村は距離的には都市部からそれほど離れてはいないが、この村から他の地域へ通り抜ける道がなく行き止まりの村のため、政府の目も届いておらず、発展しにくいのだと出張する。国際支援団体からの支援でテントなどが支援されていたが、2 階建の家々が跡形もないほどだった。ハテマロ会の現状から大規模支援の約束ができなかったが、何らかの形で支援していきたいと話してきた。そして、ハテマロノート を 200 部ほど学生に配るように置いてきた。



自分たちが大変な目に遭っているにも関わらず、家に誘ってくれる優しい村民たちだった。

③ 村視察

村の風景もすさまじいものだった。ハテマロ会元会長の御親戚のところへ昼食をごちそうになった。心より感謝を申し上げたい。実はこの家族もひどいストーリーをもっており、大地震（4月25日）の前日24日に2階建ての家が完成して住むところだったが、一日も住まないうちに地震でその家が全壊してしまったそうだ。そんな状況におかれているにも関わらず、大変おいしい食事でごちそういただき、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいになった。大変に気の毒なご家族で、ハテマロ会でも今後、このご家族を励ましていくとともに、何らかの形でこれからも一緒に村の復興のために努力していければと思う。



(2) Bungamati

全壊の建物が多く、街全体がかなりひどい状態。



(3) Chasal 夕食



CHASAL TOLE でも、以前実施した識字学級の受講生たちの現状を把握するとともに、大震災からの恐怖や精神的な苦痛を、社会集団に復帰することによって少しでも和らげることはできるという信念のもとに、夕食会を実施してもらった。こちらの受講生たちも自身の所属するコミュニティのチャパ（共同で活動する場所）を使用して朝早く、買い物から食事の支度まで一生懸命に頑張ってくれた。ここでは SAMEBAJI 一式を用意していただいた。お礼に、ハテマロ支援者から支援していただいた衣料を配り、喜んでいただいた。

受講生は地域の婦人会とほぼ重なるので、婦人会で何か現金収入になる作業をしてほしいと頼ん

だ。するとネパール財布を持ってきてくれたので、ハテマロ支援者から送られた衣料の中にあった布でお財布を作ってもらえるようお願いする。(ラジブの姉が管理)

9. Gerkuh 村 (Nuwakot) 視察：小島単独 (ボランティア通訳でマダン氏同行) 9/18 (金)

【Sri Kalika Secondary School (Nuwakot Gerkuh 村) 学校建設プロジェクト】

Subas Risal 氏 (小島友人ナビン氏 (日本在住) の弟) 夫妻によるプロジェクト。

小学校は全壊し、村人の手ですでに解体され、更地になっていた。徒歩 10 分の場所に仮設校舎を建設中。1 人 3 冊 × 250 人のノートを支援。

学校建設は、12 部屋 + トイレ 2 = 10,000,000 円を目標に計画しているが、資金の集まり具合に合わせて建設予定 (ラフ図面あり)。最低 5,000,000Rp (約 573 万円) は集めたい。

同行のマダン氏によると、妥当な費用ではないかとのこと。

校長先生によると、教具のほとんどがなくなってしまい、早急に必要なのはホワイトボード 12 枚とのこと。(ホワイトボード 1 枚 3500-5500Rp) 早急に必要ホワイトボードを小島判断で支援することに。(後日ハテマロ会に報告し賛同を得、ハテマロ会 + 小島個人で負担し支援することに) 必要金額を校長先生と Subas 氏に渡し (Rp がないため、日本円現金で)、Subas 氏が後日購入して届け、使用している写真と領収書をメールで送ってもらうことに。



学校建設は莫大な費用がかかり、ハテマロのような小規模団体では難しい。ハテマロに募金してくれた方々のためにも、目に見える緊急物資 (早急に必要教材教具など) 支援が妥当であろう。

10. 地区高齢者ケアセンター視察：小島単独 9/17 (木)

(1) Hiranya Day Care Center (パタンのゴールデンテンプル裏)

センター世話役のアムリット氏案内。Hiranya 地区高齢者の精神的ケアのために日本人支援により建てられ、8 月オープン。

週 3 回開け、高齢者向けのプログラム (高僧による説法やラジオ体操など) 中心に、地域共有スペースとして活用し、高齢者からも感謝されている。



11. ネパール小物購入：小島単独 9/17 (木)・9/19 (土)

ネパール商品を購入し、日本のハテマロ会関連イベントで販売してその利益を再度支援活動に使う「ネパール商品販売プロジェクト」は、ネパール人の経済的自立支援を目的としている。しかし、日本での販売を考えると、高品質で日本人好みの商品でないと在庫を抱え、最終的には支援にはつながらない。本来は、日本人の望む品質の商品入手が難しいネパールでは、高品質な商品作りを支援するのが望ましいが、今回は短期滞在でできないため、日本人が商品作りに関わっている高品質の店を中心に商品を購入し、今後のための試行としたい。

(1) パタン

- ①土産店「Nepal Ganesha」(池原玲子氏経営) 住所: Mongal Bazar Patan Nepal/ Tel:977-1-553282
Email: nepalganesha@live.com (店) / deburin-julie@hotmail.co.jp (池原氏)
<http://4travel.jp/overseas/area/asia/nepal/patan/shopping/10441481/>

池原さんが日本人向けに商品を注文して揃えている店で、高品質で日本人好みの商品が多い。今回、復興支援のための商品購入と話したら、他からもそういう買い付けがあり、その場合は定価の2割引で売ってくれるそう。メール注文なども可能。今回、ストール、毛糸の靴下、毛糸のレッグウォーマー、ポーチ、コースター、マグネット、お茶、岩塩、ティーマサラ、パンケースを購入。

②アクセサリー工房「Craftyala」

日本のフェアトレード店「ネパリバザーロ」で売っているブローチに似たものを探したが見つからず、Nepal Ganeshaの店員Premさんが同行紹介してくれ、社長のJulia氏(女性)に話を通し、少し安く売ってくれることに。そのため、試験的にブローチ10点オーダーすることに。

(2) タメル

①フェルト店「Colours」

タメルにはフェルト店が多いが、ここは品質がよく安かったので、コースター、ブローチを購入。

②アクセサリー店「Masala Beads」(日本人経営) Tel:977-1-4250450 <http://www.masalabeads.com>

住所: Thamel Mall Shop no. 46, Jyatha street, Kathmandu /

日本人経営の古くからあるアクセサリー店で、日本人好みで安い。(ただ、商品のネパール色は薄い) アクセサリーは好みが分かれるため、今回は購入せず。

12. KIST 医科歯科大学訪問: ラジブ単独 9/17 (木)

日本の大学で博士号を取得した医師に会いに行く。KIST 医科歯科大学病院の部長になっていた。大学を案内してくれたが、この大学のビルも震災で大きく被害を受けていた。



13. Lalitpur 郡行政局巡り: ラジブ単独 9/17 (木)



郡行政局など政府の多くの施設はラナ時代の古い豪邸を使っており、それらはほとんど崩壊していた。現在は右にある仮設住宅にて業務を遂行している。

14. Lalitpur 郡教育当局長を訪問：ラジブ単独 9/17（木）



Lalitpur 郡教育当局長を訪問し、復興支援について話し合った。当局は郡の被害にあった学校の詳細データをもっているため、支援の話を進めるときに支援が必要な学校を推薦してくれるとのこと。局長は現状では新しい建物を作るよりも壊れた建物の復旧支援を推奨したいと述べていた。

15. Bajracharya Family エンジニアを訪問：ラジブ単独 9/17（木）



姉妹2人と友人3人で経営していたエンジニアの設計事務所を訪問した。新しい建物の建築許可は現在政府から出されていないので仕事は激減しているという。ただし、地元の文化財の多くが崩壊してしまっており、多くのところから被災前の図面をボランティアで書いてほしいとの依頼がきて参っているそう。いくつかの文化財の図面をボランティアで仕上げたという。ハテマロ会にもエンジニアとつながりがあるので、ネパール人に仕事をしてもらえそうな企業があれば紹介したいと励ましてくる。

主要な文化財は政府や国連などの機関に任されているため、お寺などの修復には民間が手を出せない状況である。一方で、名もなきお寺や地元の公共施設の修復にどこからも支援がなく、いつも行われている年間行事も中止せざるを得なくなっているという。支援依頼のある文化財を紹介してくれることになった。

16. パタン旧王宮視察：ラジブ単独 9/17（木）・9/18（金）

震災時大きく報道された寺々を実際に確かめることにした。現在はほとんどきれいにされているが、地震で壊れたものは残骸のままになっている。旧王宮広場は世界遺産であるとともに、多くの住民の収入源であるだけに、一刻も早く修復してほしいものだ。お寺の修復そのものよりも、そのお寺にまつわるコミュニティ文化の崩壊が心配される。



17. YUWA SAHAVAGITA MADHYAMIK VIDYALAYA 訪問：ラジブ単独 9/18（金）

場所：SITAPAILA, カトマンズ 協力：NITESH SHRESTHA 学校関係者とは誰にも会えず、視察のみ。

被害状況：建物全体が危険とされ、政府の赤ラベルが貼られている。



※学校所在地から100mほど下ったスペースで仮設教室を設置して授業が行われている。



18. 支援がまだ届いていない公用施設の視察：ラジブ単独 9/18（金）



上の文化財は限定した集団の共有物ではあるが、地震の影響で使用不可になっている。高齢者が聖歌をうたって時間を過ごすところや年間行事の準備をするところ、そして該当集団の人生儀礼に使用され

るところなどである。いずれも使えなくなり、今年の年間行事や聖歌の合唱は取りやめになっている。お祭りそのものが中止となっており、それによる子供たちへの影響は心配である。こういうところには支援者の目が届かず、一銭も支援してもらっていないそうだ。しかしいずれもコミュニティの結束力を高めて当該コミュニティを存続するために欠かせないところばかりなので、可能なら支援してほしいと依頼されている。ハテマロ会も文化財保全に寄与することを一つの目的として掲げているので、どこか一つでも、文化財の修復を支援したい。

19. バクタプール旧王宮視察：ラジブ単独 9/18（金）



バクタプールは壊滅的な被害を受けたもう一つの町として報道されている。バクタプール旧王宮を視察したところ、ダルバール広場周辺にも崩壊した家々がかなりあったが、ここは比較的少ないと言う。町中心部から離れたところがひどいに被害を受けたとのことである。



20. カトマンズ旧王宮視察：ラジブ単独 9/18（金）

カトマンズ旧王宮もかなりの被害を受けたと報道された。実際に見たところやはり涙ぐむほど崩壊していた。大分整理されていたが、残骸だけを目にしてもとても悔しい。やはりカトマンズ、いやネパー

ルの歴史でもある文化遺産がこれだけ崩壊してしまっているのは大変残念である。我々が支援できる規模をはるかに超えた被害なので、声を挙げられないが、政府として一刻も早く復興の作業を進め、過去よりも耐震ある文化財に復旧してほしい。



21. Cafe De Patanにて協力者と食事会：ラジブ単独 9/18（金）



ネパール滞在最終夜、これまで協力してくれた方々とレストランにて夕食会を開催する。大変短い旅だったが、皆様のお陰様で、普通の団体ができないようなたくさんの活動を実施することができた。心から感謝したい。今後もハテマロ会はネパールの復興支援に全力を尽くしていく。またご協力をお願いすることがあると思うが、今回同等以上のご協力賜りたい。

22. SIDDHIMANGAL HIGHER SECONDARY SCHOOL へのノートを委託：ラジブ単独 9/19（土）

ラリトプール市の中では是非視察したいと企画していた SANOGAUN 村。しかし、今回の短期間滞在ではかなりきついスケジュールだったため、赴くのを諦めざるを得なかった。この村の学校の先生に、生徒320名へのノート配布を委託し（計1000冊）、後日生徒たちへ配布した写真での報告をしてもらうことにした。その写真が送られてきたので、下記に添付する。



謝辞

以上、ネパール大震災復興支援の第1回目の活動及び現況報告になります。これまでネパールのことを忘れず、様々な形で震災復興への善意をお寄せいただきました皆様に、改めてこの場を借りて心より御礼を申し上げます。上記のように現地で活動して参り、少しではあるが、皆さまからの善意を、支援の手としてさし伸べることができました。支援を受けた被災者からも歓喜の声とともに、ご寄付をされた皆様への感謝を託されました。被災された方々を代表し、御礼申し上げます。ご寄付金は着実に被災者に届いているのでご安心ください。

皆様から寄せられた寄せ書きメッセージはネパールに置いてまいりました。メッセージが日本語であるため、日本人も集まるところに展示する形になります。

最後に、一つ言えるのは、復興の作業は震災後5か月経った今でも進んでおらず、ネパールの大震災からの復興は程遠いように感じます。しかし、われわれハテマロ会はめげずに復興のために尽力して参りますので、今後ともご協力ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上